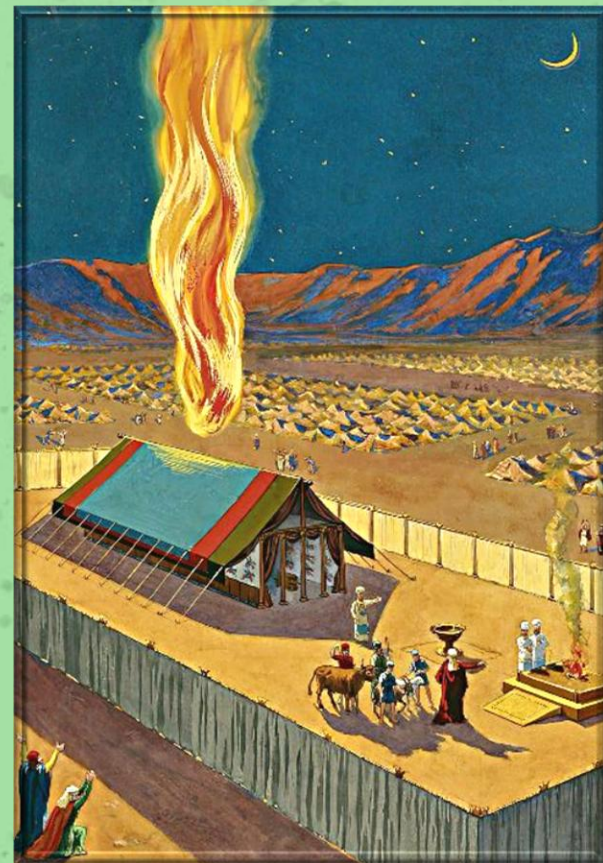
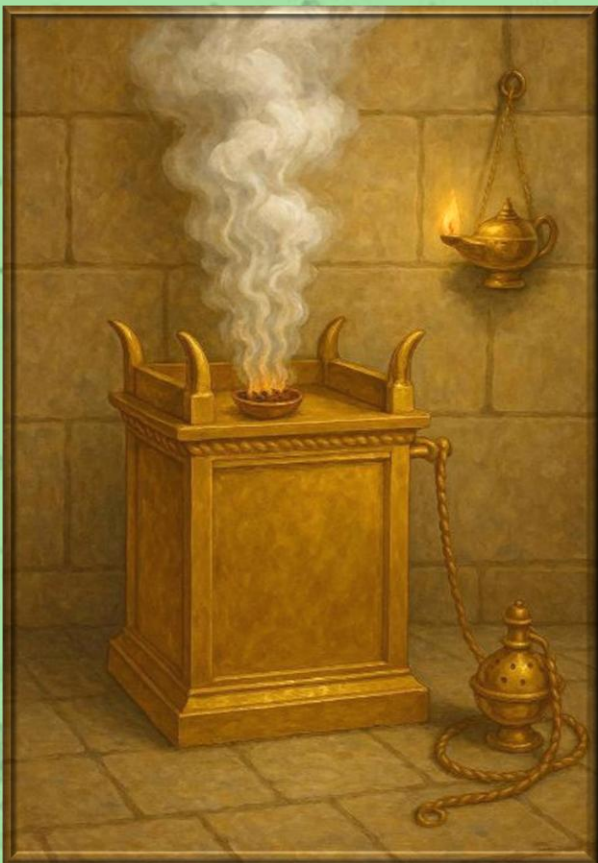




幕屋

2025年 9月27日 第13課



そのとき、雲は会見の天幕をおおい、
主の栄光が幕屋に満ちた。…すなわち
イスラエルの家のすべての者の前に、
昼は幕屋の上に主の雲があり、夜は雲の
中に火があった。彼らの旅路において
常にそうであった。

出エジプト記 40:34, 38 口語訳





雲は臨在の幕屋を覆い、主の栄光が幕屋に満ちた。...旅路にあるときはいつも、昼は主の雲が幕屋の上にあり、夜は雲の中に火が現れて、イスラエルの家のすべての人に見えたからである。

出エジプト記 40:34, 38 口語訳



出エジプト記の最後の章は、幕屋の建設と奉獻に関する詳細な記述に費やされている。

これらは、人々が喜んで参加し、それぞれができる限り神のためのこの偉大な仕事に貢献した特別な瞬間でした。

神がこの移動可能な神殿を建てた主な理由は、ご自分の民の中に住みたいという願いです（出 25:8）。この願いはイエスにおいて成就し、私たち皆が新しい地上でイエスと共にいる時に完全に実現されます。



準備:

➡ 主の安息日 (出 35:1-3)

➡ 献げ物と聖霊 (出35:4-36:7)



幕屋:

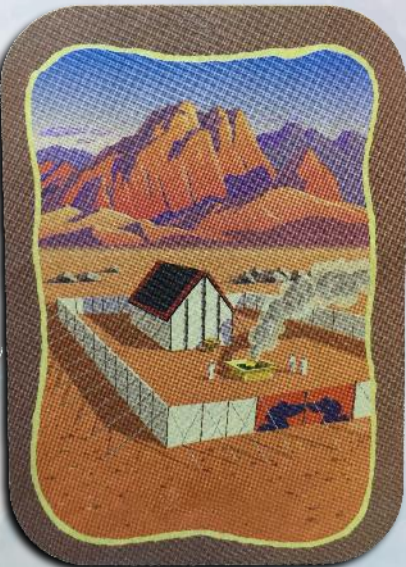
➡ 建設された幕屋 (出36:8-39:43)

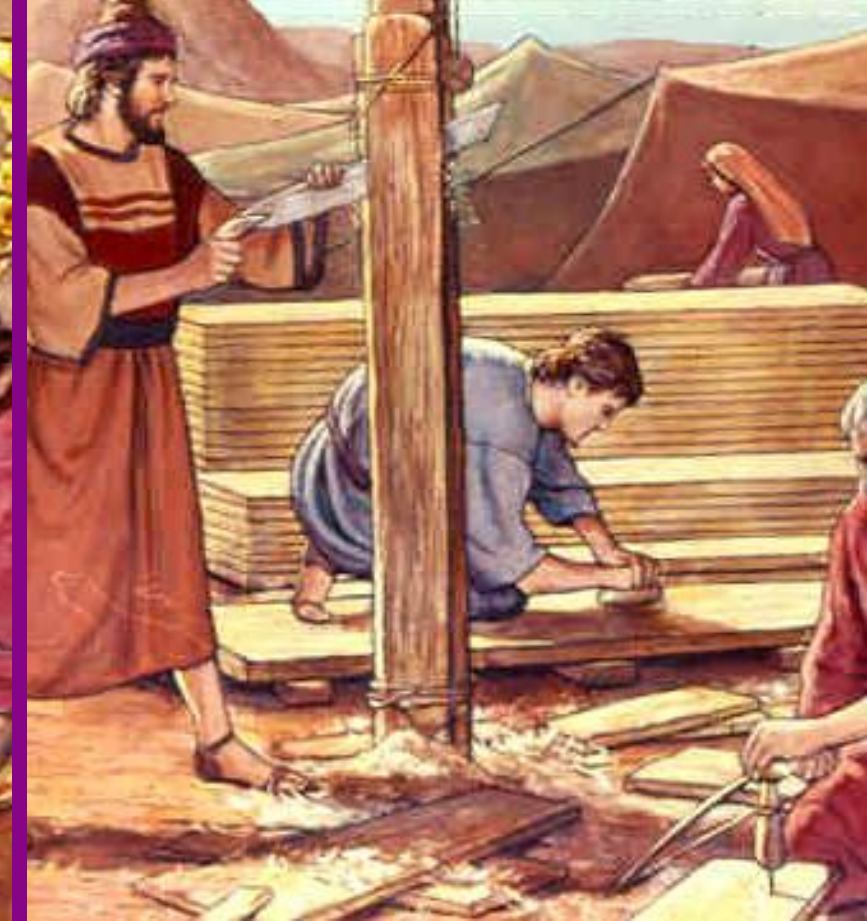
➡ 幕屋における神の臨在 (出40:1-38)



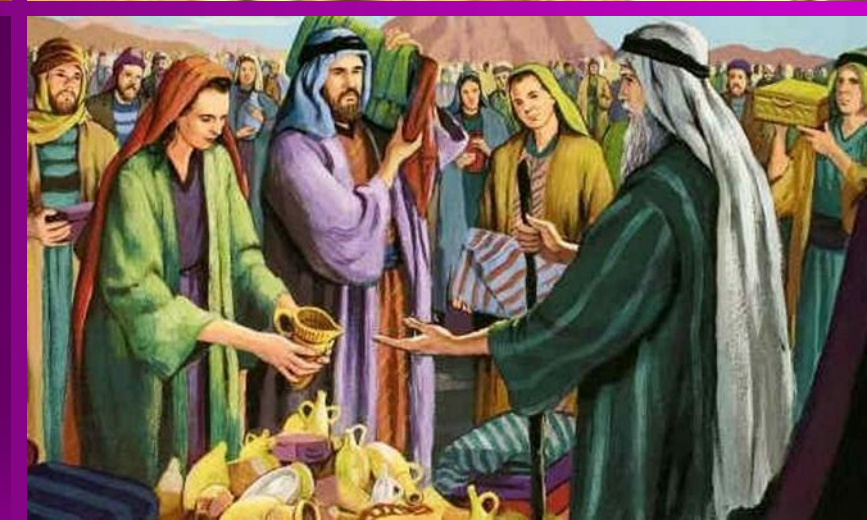
別の幕屋:

➡ 人間の間に宿られたイエス





準備

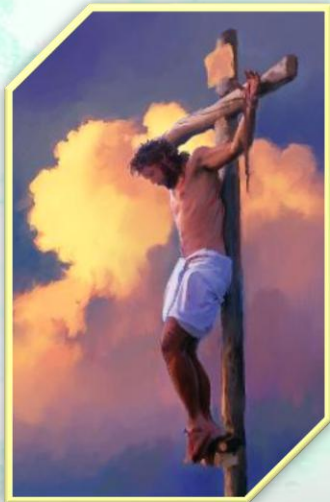


主の安息日

六日の間は仕事をしなさい。七日目はあなたがたの聖日で、主の全き休みの安息日であるから、この日に仕事をする者はだれでも殺されなければならない。(出エジプト記 35:2)

神の栄光を垣間見た後、モーセは民に「主が命じられたこと」(出35:1, 4)を伝えました。この指示には、時間(安息日)と空間(幕屋)における神との関係が含まれていました。

神は安息日を、私たちが創造の地で神との交わりを楽しむための特別な時間として定め(創2:1-3、出20:11)、十戒を布告する直前にイスラエルにこのことを思い出させました(出16:22-29)。



安息日は、神が私たちの創造主であり、贖い主である(申5:15)ことを私たちに思い出させ、永遠に神との交わりを楽しむことができる未来へと私たちを導きます(イザ66:22-23)。

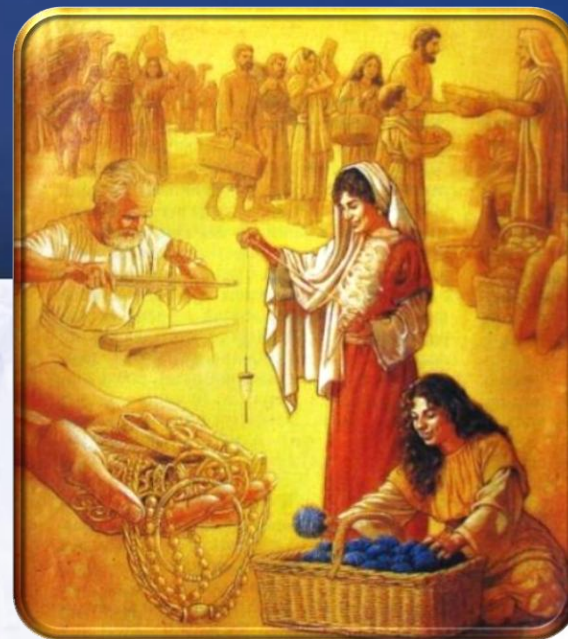


ユダヤ人の格言に、「イスラエルが安息日を守ったのではなく、安息日がイスラエルを守ったのだ」というものがあります。

私たちアドベンチスト教会員の生活において、安息日は、どんな重要な役割を果たしているのでしょうか。

献げ物と聖霊

あなたがたの持ち物のうちから、主にささげる物を取りなさい。すべて、心から喜んでする者は、主にささげる物を持ってきなさい。すなわち金、銀、青銅。[...]すべてあなたがたのうち、心に知恵ある者はきて、主の命じられたものをみな造りなさい。(出エジプト記 35:5,10)



幕屋の仕事に貢献するには、資材を寄付する方法と労働力を提供する方法の2つがあった。

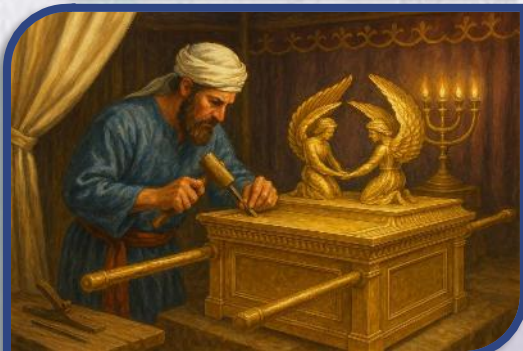
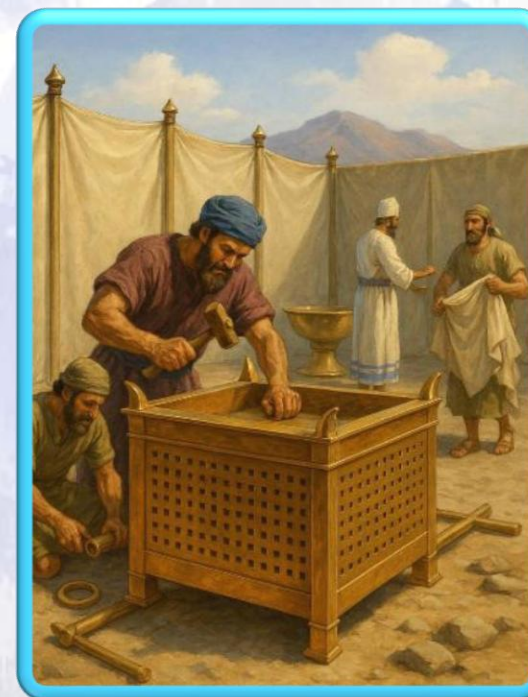
1 t 以上の金、約3.75 t の銀、約2.5 t の青銅のほか、木材やさまざまな織物が使われた（出38:21-31）。

これらすべてはどこから来たのか？その多くは、イスラエルがエジプトを去るときにエジプト人から奪ったものです（出11:2）。

さらに、紡績工、裁縫師、仕立て屋、大工、彫刻家、宝石商などの仕事も必要だった。

皆が喜んで手伝ったので、ベザレル、アホラブ、その他の労働者たちは、モーセに人々が供え物を持ってくるのを止めるように頼んだ（出36:3-7）。

この仕事を成し遂げるために、聖霊は関係するすべての働き手に賜物を授けられた（出35:30-36:2）。同様に、聖霊は 神の御業に協力するすべての人々に必要な賜物を与え続けておられる。



聖霊に満たされたとき、
あなたはどんな霊的賜物を受けましたか。
霊的賜物は、生活の中で霊の実を
育てるときにのみ、豊かに活かされることを
忘れないでください
(ガラ**5:22、23**)。

「神は男女に貴重な賜物を授けられた。それぞれに異なる賜物を与えられたのである。誰もが同じ強靱な性格や深い知識を持つわけではない。しかし、たとえその賜物がどれほど小さく思えても、各人は主の奉仕にそれを用いるべきである。忠実な執事は、自分に託された財産を賢く運用するのだ。



幕屋

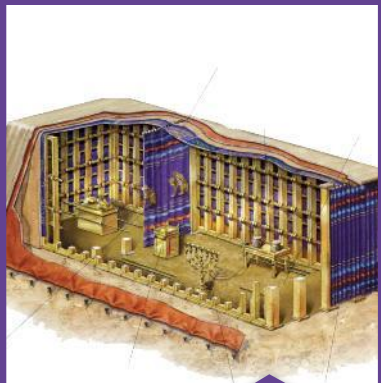


建設された幕屋

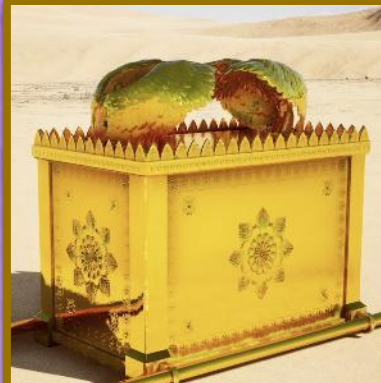
モーセがそのすべての工事を見ると、彼らは主が命じられたとおりに、それをなしとげていたので、モーセは彼らを祝福した。(出エジプト記 39:43)



会見の幕屋がその機能を果たすためには、どのような要素が必要だったのか？



幕屋（聖なる
場所と至聖
所）



黄金の
契約の箱



パンのテーブル



燭台



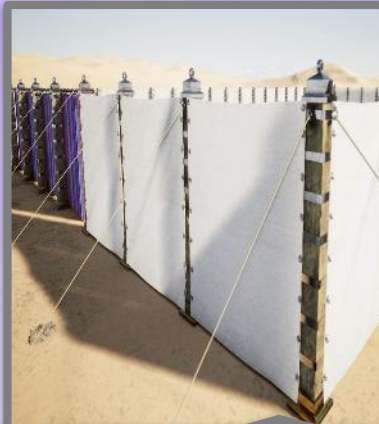
香の祭壇



燔祭の祭壇



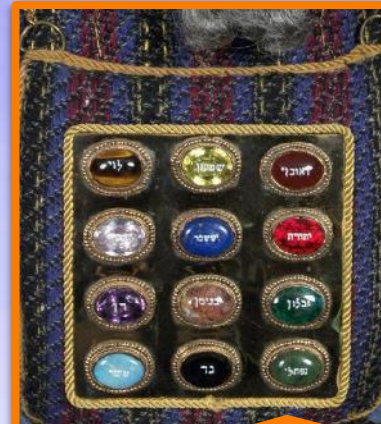
青銅の洗盤



外庭



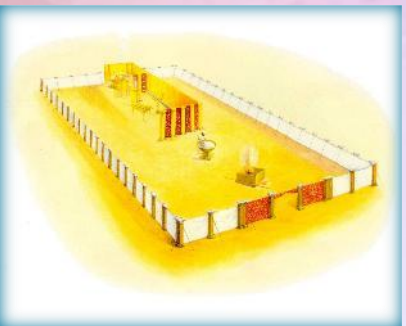
エポデ



宝石のはめられ
た胸当て

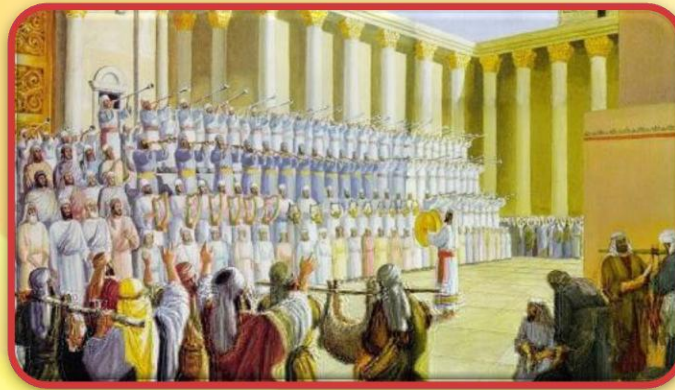


その他の衣服



建設された神の幕屋

聖所（幕屋と中庭）が建設された当時、そこでは日々の礼拝と年ごとの礼拝という二つの異なる儀式が行われていました。それぞれの儀式を総合すると、次のことがわかります。



神は罪を憎まれる

神は罪人を救われる

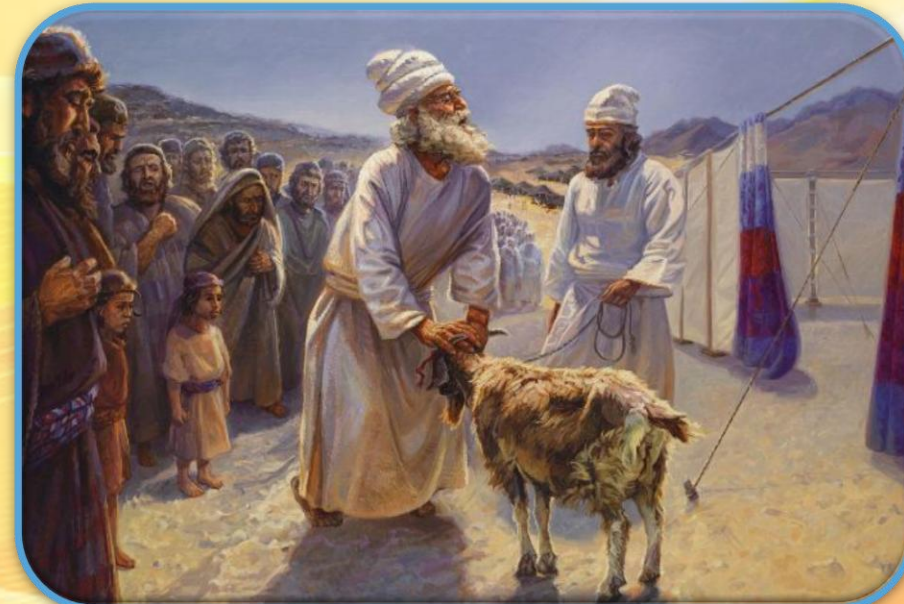
神は悪人を滅ぼされる

神は栄光の未来を保証してくださる

日々の礼拝を通して、神は恵みによって罪人を赦す方法を示されました。それは、「世の罪を取り除く神の小羊」である罪のない動物の死によってでした。（ヨハ1:29）

神は年1回の礼拝（贖罪の日）を通して、宇宙から罪を根絶する方法を示し、悪の問題に対する最終的な解決策を示しました（詩 73:17）。

聖所は神を崇拜し、讃え、感謝を表す場所でもありました。



出エジプト記**36:8～39:31**を、
ざっと読んでください。

なぜこれほど明確な指示が
与えられたのだと思いますか。
このことは、神がいかに細部まで
気を配られるかについて、
何を教えているのでしょうか。

幕屋における神の臨在

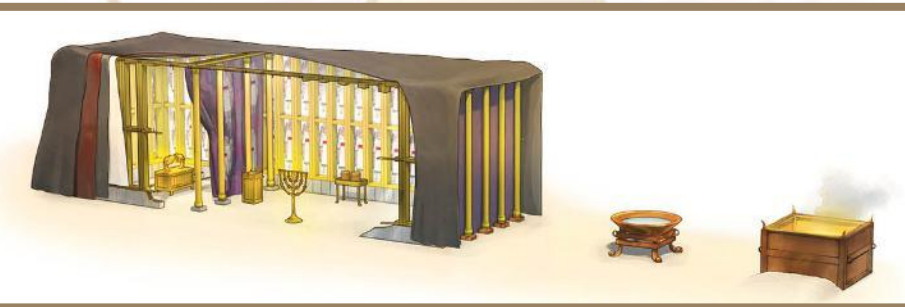
そのとき、雲は会見の天幕をおおい、主の栄光が幕屋に満ちた。
(出エジプト記 40:34)



出エジプト記は、聖所とその祭司たちの奉獻で終わります。この章の主人公は、紛れもなく神であり、神はその栄光の臨在ですべてを満たします（出40:34）。この臨在は、雲とシェキーナ（箱のケルビムの間に現れる神の栄光の顕現）を通して幕屋に付き従い続けました。



数ヶ月にわたる作業の後、エジプトを出てから2年目の第1の月の1日に聖所が建てられました（出40:2、17）。すべてのもの（契約の箱、垂れ幕、祭壇、シャンデリア、金の祭壇、青銅の祭壇、洗盤）が整然と並べられ、聖別されました（出40:9）。



最後に、アロンとその息子たちは祭司の衣をまとい、その使命のために油を注がれました（出 40:12-15）。



今でも、あなたが神の臨在を
体験できる方法には、
どんなものがありますか。
そのような体験をすることは、
なぜ重要なのでしょうか。

「幕屋の内部の光景の輝かしさは、どんな言葉をもってしても描写することができない。——金の燭台の光を反射する金張りの壁、きらびやかに刺繍した天使の浮き出るたれ幕のまばゆい色合い、金色に輝く机と香の祭壇、そして第2のとばりのむこうには、聖なる箱と神秘的なケルビム、その上方の主の臨在が目に見える形であらわされる聖なるシェキーナー。だが、このすべては人間の贖いのわざの中核である、天にある神の神殿の栄光をおぼろげに反映するものにすぎない。」



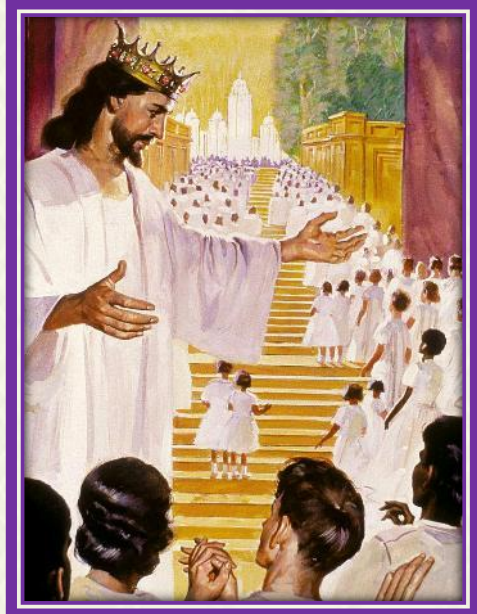
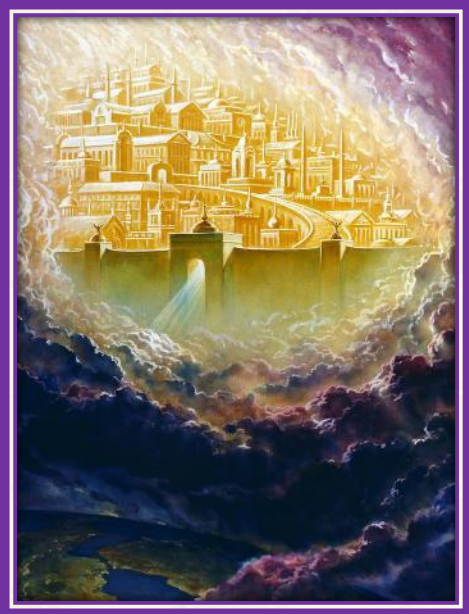
別の幕屋

人間の間に宿られたイエス

そして言は肉体となり、わたしたちのうちに宿った。(ヨハネ 1:14a)

また、御座から大きな声が叫ぶのを聞いた、「見よ、神の幕屋が人と共にあり、神が人と共に住み、人は神の民となり、神自ら人と共にいまして、(黙示録 21:3)

ヨハネ1:14には、イエスが「肉となって私たちの間に宿られた」と書かれている。受肉によって、永遠の神であるイエスは、物理的に私たちの間に住まわれないという願いを果たされた。私たちとともにおられる神、インマヌエルとなられたのです(マタ1:23)。



聖霊を通して、神は今日も私たちとともに住まわれる
(マタ18:20、1コリ3:16)。

しかし、私たちが神と顔を合わせて立ち、神ご自身が私たちのために用意してくださった王の幕屋、新しいエルサレムで神とともに住むことができる日がもうすぐ来ます(黙 21:3)。

これは、救いの計画が完了し、悪が完全に根絶されたときに起こります。

イエスの約束を思いつつ、
どうすれば最後まで
耐え忍ぶことができますか。

神は、イスラエル人について、「彼らにわたしのために聖所を造らせなさい。わたしが彼らのうちに住むためである」とモーセに命じられた（出エジプト25：8）。そして神は聖所の中に、すなわちご自分の民のまん中にお住みになった。イスラエル人が疲れはてて荒野をさまよい歩いていた間じゅう、神の臨在の象徴は彼らとともにあった。そのように、キリストはわれわれ人間の陣営のまん中にご自分の幕屋をお建てになった。キリストはわれわれのうちに住み、ご自分のきよい品性と生活とをわれわれにあらわすために、人間の天幕のそばにご自分の天幕を張られた。「ことばは肉体となり、わたしたちのうちに宿った。わたしたちはその栄光を見た。それは父のひとり子としての栄光であって、めぐみとまこととに満ちていた」（ヨハネ1：14）。